

## 1 実践の概要

タイトル	総合防災訓練～安全安心を地域と共に～（比内養護学校かづの分校）
概要	<p>地震発生に伴う避難訓練と、避難所としての役割を想定した訓練コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災意識を高め<b>備える</b></li> <li>・防災スキルを身につけ<b>命を守る</b></li> <li>・学校と地域が協力しての<b>りこえる</b></li> </ul> <p>期日：（夏季）平成26年 7月12日（土） （冬季）平成26年12月16日（火）</p> <p>場所：比内養護学校かづの分校</p> <p>時間帯：9：00～12：30</p> <p>参加者：全校生徒50名、教職員29名、保護者31名、地域住民16名</p>

## 2 実践内容

実践方法と進め方	工夫した点○ 苦勞した点●
<p>1 年間計画の作成</p> <p>（1）児童生徒の実態</p> <p>（2）地域の実態</p> <p>2 事前の取り組み</p> <p>（1）防災グッズの製作</p> <p>（2）事前訓練</p> <p>（3）チラシの制作、配付</p> <p>（4）寸劇</p> <p>3 防災訓練当日</p> <p>（1）地震を想定した避難</p> <p>（2）学校が避難所となった時の訓練</p> <p>4 他の学習活動への汎化</p> <p>（1）高等学校との交流</p> <p>（2）他学部との関わり合い</p>	<p>○単発で終わらないよう、年間通した活動を計画</p> <p>○地域住民との交流を深め学校理解、障害児の理解を促進する内容</p> <p>●実際は地域住民の参加があまり良くない</p> <p>○東日本大震災を参考にした実践的な訓練内容</p> <p>○「学校にあるもので何ができるか？」等、実験企画などを行い児童生徒も一緒になって調理</p> <p>○高等部生による寸劇を通して、小中学部生の防災意識を高める</p> <p>○日本赤十字社の協力</p> <p>○実際に想定した内容</p> <p>○地域特性に応じた内容</p> <p>○学校にあるものを活用した活動の紹介</p> <p>○総合防災訓練で習得したスキルを生かした高等学校との交流会（AED人工心肺蘇生の講習会を合同で行う）</p>

団体名、組織名	協力、連携の内容
日本赤十字社秋田県支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練内容を立案する際の指導</li> <li>・総合防災訓練当日の演習を中心にした指導（炊き出し、AED人工心肺蘇生、ケガの手当、熱中症予防、身体保温法）</li> </ul>
鹿角市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関わる物品の借用（炊き出し釜等）</li> <li>・赤十字鹿角支部ボランティアへの派遣依頼</li> </ul>
鹿角市役所危機管理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合防災訓練の総評</li> <li>・次年度へ向けたアドバイス</li> </ul>
赤十字鹿角支部ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合防災訓練当日の演習の補助</li> </ul>
各自治体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合防災訓練への参加</li> </ul>
P T A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合防災訓練への参加</li> <li>・訓練進行の手伝い</li> </ul>



A E D ・人工心肺蘇生



ケガの手当



炊き出し訓練



食料受け取りの様子

### 3 成果と課題

成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒、P T A、地域住民の防災意識とスキルを高めることができた。</li> <li>・児童生徒は、災害時にどのような動きになるのかを体験し、炊き出しや配給、人命救助など自分にできることはどのようなことがあるのかを知った。</li> <li>・地域住民と交流を深めながら、災害時の身近にある避難所としての学校の役割を確認できた。</li> <li>・全体を通して「思いやりの気持ち」が育まれ、率先して下級生の面倒を見たり、地域住民が話しかけてくれたりするようになってきた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の参加率を上げること。</li> <li>・児童生徒の訓練内容の充実。特に小学部の児童の参加の仕方に大きな課題があり、今後自己有用感を高めるための参加内容を検討する必要がある。</li> <li>・学習活動等を通して思いやりのある場面が見えたり、集団行動ができるようになっていたりしていることは評価できるが、実際の災害時に訓練の成果を発揮できるかどうかの評価が難しい。</li> </ul>
今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画から見直し、児童生徒の参加を充実させる。(テントや釜の設営、物品の搬送などの訓練を行って生徒が訓練会場設営をする。校内の避難経路の保守を生徒が行う等)</li> <li>・P T Aとの連携を強化し、児童生徒と地域住民が交流をする橋渡しの役割を担ってもらう。</li> </ul>